水と緑　人のいきかう　高島市

広報たかしま Takashima

2008 12.15 平成20年 No.81

広報たかしま（平成20年12月15日号）第81号

■発行／高島市　編集／企画部秘書広報課
〒520-1592 滋賀県高島市新旭町北畑565番地 ☎0740(25)8190
http://www.city.takashima.shiga.jp
t-info@city.takashima.shiga.jp

歌の力で、周りの人がハッピーに！
「混声合唱団コーロ・いまづ25周年記念演奏会」で

■表紙の写真

11月30日(日)、混声合唱団「コーロ・いまづ」の結成25周年を記念した演奏会が、高島市民会館で開かれました。演奏会は、地元の合唱団との歌合戦や高島ロータリークラブが交流する韓国・釜山から訪れた女声合唱「木蓮合唱団」とのジョイントステージなど4部で構成され、心のこもった澄んだ歌声をホールに響き渡らせました。客席からの鳴り止まない拍手に応えて、アンコールに木蓮合唱団との「琵琶湖周航の歌」が披露され、会場全体が一体感と幸福感に包まれました。

❷・❸　タウントピックス
❹―❼　お知らせ拡大版
❽・❾　みんなで子育て、親育ち！
　　地域で子育ち、親育て！
❿　いきいき元気生活
⓫　防災・消防情報
⓬―⓯　情報お知らせ版
⓰　警察・交通事故発生状況・消費生活相談
⓱　文化情報
⓲　人権を考える、藤樹先生の逸話

シリーズ 人権を考える パート④

同和問題の解決に向けて
～自分の意志で考え行動する～

日本社会の歴史的発展の過程で形づくられた身分的差別によって、国民の一部の人々が長い間、経済的、社会的、文化的に低い状態を強いられてきました。

1869年（明治2年）版籍奉還により封建時代の基本的な身分制度は廃止され、1871年（明治4年）明治政府による太政官布告により制度上の身分差別はなくなりました。しかし、以後百数十年が経過した現代でも、同和地区に対する偏見や差別意識により、特定の地域出身であることやそこに住んでいることを理由に人権が侵害されているという問題が同和問題です。

同和問題は日本固有の人権問題です

同和問題は、生まれたところや住んでいるところによって様々な差別を受けるという日本固有の人権問題です。

人は自らの親や出生地を選ぶことはできません。誰にでも故郷があり、親しい人と共にあり、誇りに感じるのが故郷です。その故郷を人に言えない、故郷が分かると結婚や就職で差別を受けるという現実が未だにあります。

人権に関する意識調査から、同和問題の認知時期は、子どもの頃に身近な人との日常会話の中で知ることが多いようです。社会や人に対する見方・考え方が十分に確立していないこの時期は、知らず知らずのうちに偏った考え方が植えつけられてしまうおそれがあり、子どもの時にマイナスのイメージで入ってきた意識は、大人になってもなかなか払拭できないことが多くあります。

1974年（昭和49年）に小学校の社会科の教科書に初めて部落問題の記述が掲載されました。子どもたちは学校で正しく同和問題を学んでいます。同和問題の解決のために、正しく学ぶことが必要であることはいうまでもありません。大人もまた様々な研修の場で同和問題について正しく学ぶことが大切です。

「自分には差別意識はないが…」とか、「自分ひとりが反対しても…」という人がいます。果たしてそれは差別をしていないということでしょうか。社会の差別意識を残しているのは、私たち自身の意識の持ち方です。世間や他の人のせいにしているのは、差別をしていることと同じだということを認識しなければなりません。また、「同和問題は同和地区の人たちの問題であり、自分には関係がない」という考えを持っている人がいます。しかし、日本の社会には部落差別だけではなく、女性差別、障害者差別など、さまざまな差別があります。私たちは差別する側に位置したり、差別される側に置かれたりする状況にあるのです。

また、同和問題を取り上げることは、部落差別を知らない人に認知させたり、差別を意識させることになるからこの問題にふれない方がいいという人もいますが、この考えは差別を容認することになり、差別を受けている人たちに我慢を強いることにもなります。今も差別があるのは、長い間、過った知識や偏見が伝えられてきたからです。今の社会は人が人を差別する社会であってはなりません。

差別のない明るい社会にするために、同和問題を正しく理解し一人ひとりが自己の問題としてとらえ、偏見や世間体にとらわれず、自分の意志で考え行動することがとても大切なことなのです。

問 高島市人権施策課
☎(25)8524
FAX(25)8102

藤樹先生の逸話【最終回】

「世界の平安（へいあん）を祈る」

藤樹先生は、かつて小川村の神明（現在の日吉神社）にもうでて、

「天下太平、大道興隆。
時に和し、年豊かに、
民安く、物ゆたかなり。
家みな孝子、
国みな忠臣あり」

と祈願しました。先生には、一派を立てるような私心など、もとよりありませんでした。ただ、世界中の人々が、善の道に向かわれることを願いとされました。

【解　説】

先生は毎朝、孝経を拝誦されていましたが、その終りに「ただ願うところは、人々の寿命が長く、国に賢臣がいて政治が安定し、戦争が無くなるように」と述べて祈りました。

R100 古紙パルプ配合率100%再生紙を使用。
PRINTED WITH SOY INK 大豆インクを使用しています。